

模擬国連概要

および第 10 回全日本高校模擬国連大会参加報告

岩 本 祐 樹

0 章 はじめに

本稿は、今年度、本校の生徒 2 名が参加した全日本高校模擬国連大会の報告をする。1 章では、模擬国連の概要を紹介し、2 章において、期待できる教育効果について述べる。そして、3 章で、その教育効果を軸に、生徒が今回参加した全日本高校模擬国連大会の参加報告をする。4 章では、まとめとして、これからの展望を記すことで、今後の模擬国連活動が学内および学外において、より広範な活動になることを期待したい。

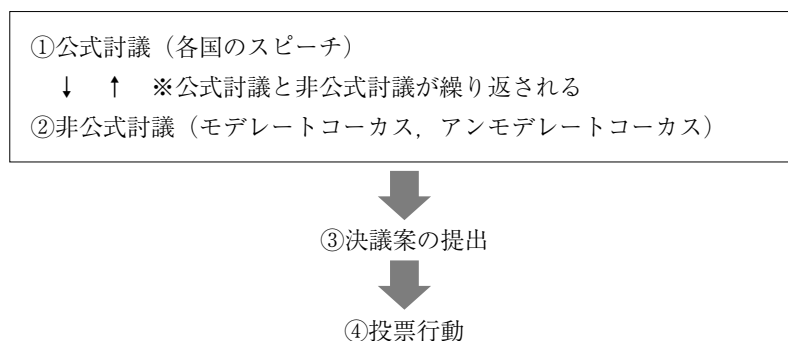
1 章 模擬国連とは

模擬国連は、アメリカのハーバード大学で始まった教育プログラムであり、現在では世界の大学、高校で課外活動として取り入れられている。日本においても、主に大学生の活動として行なわれているが、近年、高校生の間でも活発になっており、高校生を対象にした全国大会は、今年度で第 10 回を迎えた。模擬国連は、実際の国連の活動をシミュレーションすることで、国際問題に対する理解を深めることや、リサーチ能力、批判的思考力、交渉力を含めたコミュニケーション能力などを向上させることを目的としている。

実際の模擬国連の会議では、まず議題が設定される。会議を運営する側は、その議題に対する概要、基本的な背景知識が書かれた「議題解説書」を用意する。会議の参加者は、事前にそれぞれが担当する国が割り当てられ、議題解説書を中心に、担当国の立場や主張に沿って、議題についてリサーチする。

会議は、以下の流れ（図1）に沿って行なわれる。

図1. 会議の大まかな流れ



以下に、図1の中の①～④を具体的に説明する。

- ①公式討議：各国が自国の主張をスピーチする。日本で実施されている会議の多くは、英語で行なわれる。
- ②非公式討議：モデレートコーカスとアンモデレートコーカスからなる。モデレートコーカスでは、議論すべき内容を絞り、参加者全体で話し合う。議論の論点を話し合う場合もあれば、会議の進め方に関するものもモデレートコーカスの議題となりうる。アンモデレートコーカスは、各国の大使が制限時間の間、自由に他の国の大使と議論、交渉できる時間である。
- ③決議案の提出：公式討議，非公式討議を繰り返し、主張をともにする国同士で決議案を作成し、提出する。決議案を提出するためには、会議で定められた一定数以上の国が、共同提出国としてその決議案を支持していなければならない。
- ④投票行動：提出された決議案を投票にかけ、その内容を会議の決議として採択するかどうかを問う。基本的には各国の投票による。

図1に示されているように、会議は、公式討議として各国のスピーチを順次行ないながら、参加国の提案（動議）により、非公式討議を行なう。モデレートコーカスかアンモデレートコーカスのどちらを行なうかも、参加国の動議によって決定する。決議案は、提出の時間が定められている。モデレートコーカスとアンモデレートコーカスの中で、妥協点をお互いに模索し、決議案を作成し、また複数の決議案を合わせたりすることで、コンセンサスをはかることが、参加者の共通の目標となる。

2章 期待できる教育効果

本章では、会議とその準備において、期待できる教育効果について考える。まず、模擬国連の会議に参加するためには、事前のリサーチが必須であるため、議題となっている国際問題に精通することができる。また、そのリサーチをもとに、国益にかなった提案を国際社会にすることが求められるので、この過程において、批判的思考力、論理的思考力が身に付くと言える。後述するが、全日本高校模擬国連大会に出場するためには、課題による選考が行なわれるが、この課題においても、文章を要約する力、創造的な解決策を考える力、論理的な主張をする力などが問われるために、アカデミックスキルを養うには非常に良い経験である。なお、本稿で述べている「アカデミックスキル」とは、「学んだ知識をまとめ、問題点を自ら探し、自分の意見を発表する（もしくは問われていることに答える）一連のスキル」といった意味合いである。

これ以外に、模擬国連の教育効果で特徴的なのは、「異なるものの見方」をする経験ができることと、「交渉する力」が身に付くことである。これは、模擬国連が、以下の2つの点でディベートなどの活動と異なるためである。第1に、与えられた国際問題に対する解決策は、担当する国の国益を最優先に考えなければならない点である。したがって、日本の主張や自分個人の意見ではない視点から、解決策を提示する必要がある。ディベートのように賛成・反対といった2項対立ではなく、国によって主張は様々変わるため、多様な見方をする必要がある。第2に、会議で他国の大使と議論する際は、妥協点を考えながら議論していかなければならない点である。会議では、設定された国際問題の解決に向け、国際社会として、何らかの前進をすることが求められる。お互いの提案の中で、どの点が譲れないのか、また、提案されている以外の創造的な解決方法はないのかを模索しながら、議論しなければならない。このように、相手を論破するのではなく、異なる視点、価値観を持っていることを前提に、話し合い、つまり交渉を進めなければならない点が、教育効果として期待できる模擬国連が持つ特徴である。

最後に、英語の学習に関しても、利点がある。全日本高校模擬国連大会においては、会議の議事進行は英語で行なわれる。それ以外では、公式討議によるスピーチと決議案は英語でまとめなければならない。決議案をまとめる際には、素早く英語を書いたり、読んだりする能力が求められる。また、会議での英語の使用は、さほど多いとは言えないが、事前のリサーチでは英語の資料を読む必要性もあり、リーディング力の向上が期待できる。これは、「英語力向上のために読む」のではなく、探している情報を得るためにリーディングを行なう「内容重視」の英語教授法に近いものがある。高校生が、英語力の向上以外の目的で英文を読む機会は少ない。必要な情報を得るためのリーディングが、会議に参加する上で課されることは、英語力の向上において効果的である。

3 章 大会参加報告

1 章および 2 章を踏まえ、今年度参加した第 10 回全日本高校模擬国連大会の参加報告をする。

今年度、本校から初めて、1 組のペアが、全日本高校模擬国連大会に参加した。本会議に参加するためには 1 次選考として課題が課される。今年度は、202 チーム（135 校）が第 1 次課題に応募し、86 チーム（64 校）が本大会に参加した。以下、1 次課題と本会議の 2 つに分け、教育効果を軸に活動を振り返る。

3-1 1 次選考課題

今年度は、1 次選考として、生徒それぞれが取り組む英語課題が 1 つ、ペアで取り組む日本語課題が 4 つ課された。この中でも、上記に述べた教育効果に関係する課題を以下に抜粋する。なお、すべての課題の内容については、本稿の最後に記載したグローバルクラスルームの HP を参照していただければと思う。

1. 合意形成にあたって重要だと考えることは何ですか。具体的な議論を想定しながら説明しなさい。（英語で 250words。ペアでそれぞれが作成。）
2. アメリカ合衆国、イタリア、エジプトは、安保理改革について日本と異なる立場をとる国であるが、この中から 1 カ国を選び、なぜそうした立場をとるのかを明確にしながら、その国の視点から安保理改革への考えを述べなさい。（600 字以内。ペアで 1 つ。）
3. 持続可能な開発目標のうちの 1 つである「気候変動への対応」を世界的に達成するにあたり、日本政府として、日本の強みを生かして具体的にどのような支援を打ち出すことができるか、あなたなりに述べなさい。ただし、その支援が日本にどのようなメリットをもたらすかについても言及すること。（1000 字。ペアで 1 つ。）

1 つ目の英語課題では、英語によるライティング能力が問われるのは言うまでもないが、それ以上に、合意形成に重要なことを自分で探し出し、その点を具体例を挙げて説明するという「アカデミックスキル」が問われている。この英語課題に対し、本校の生徒 2 人は、「創造的解決を模索すること」、「すべてのステークホルダーが情報を等しく共有すること」をそれぞれ重要な点とし、「ダムの建設」、「ゴミ処理場の建設」という例を挙げながら、主張を展開した。

2 つ目の安保理改革については、日本ではなく他国の改革案についてリサーチすることが求められている。本校生徒は、イタリアを選択した。イタリアは、日本が主張する常任理事国の議席増に反対する立場であり、生徒もその背景にある政治的理由などをリサーチ

し、課題をまとめた。日本と対立する主張をする国はいくつもあり、立場もそれぞれ異なる。その中でもイタリアの主張をリサーチすることで、「多角的なものの見方」を身につける良い機会になったと思われる。

また、最後の 1000 字の課題は、日本の強みという条件をクリアした上で、気候変動に対する具体的な支援の例を挙げ、その理由を述べなければならないことから、論理的な文章を構築することが求められる。また、具体的な支援を考えることは、創造力も求められる。本校生徒は、二酸化炭素の排出権と引き換えに、日本の技術を世界の各国に移転するという「2 国間クレジット」という制度に着目し、主張を展開した。高校生にはあまりなじみがない 2 国間クレジットという制度を議論の軸にして、日本の技術および日本にもたらすメリットを述べた点は、評価されたのではないか。独創的ではないにしろ、日本の強みと具体性を考慮した現実的な提案をしたように感じる。

なお、ここでは紹介しなかったその他の課題には、資料を読んで要約をするものも含まれ、「知識を理解し、その内容をまとめる」といったアカデミックスキルの育成にも効果的な課題であった。

3-2 本会議

本会議では「サイバー空間」というテーマにおいて、国際会議を模擬する会議が行なわれた。会議に参加するにあたって、本校の生徒はロシア大使が割り当てられた。大会当日をむかえるまで、大会本部が用意した議題解説書を中心にリサーチを行なった。議題解説書の中には、会議に参加するための必読の文書として、実際のサイバー会議の英文で書かれた過去のレポートを読むことが義務づけられた。この点は、2 章で述べたように、生徒のリーディング力の向上に寄与したと思われる。

会議には、いくつかの論点が設定されており、主にその点について議論し、合意形成を目指していくことが求められた。その中でも、本稿で特筆すべきなのは、「サイバー空間に国家の主権は存在するか」という論点である。この点に関して、ロシアは主権の存在を強く主張し、情報自体の規制もサイバーセキュリティにおいて重要であるとする一方、日本を含めた欧米諸国は、主権の存在に否定的である。本校の生徒は、個人的な主張ではなく、ロシアの立場に立った主張や提案をすることが求められた。これは、上記で述べた「異なる視点から物事を見る・考える力」の向上に効果的であると言える。

実際の会議の中では、事前にリサーチした内容をもとに、各国の大使と議論し、決議案をまとめていった。今回の会議では、1 日目にまず、主張を同じくする国同士でグループを形成し、提案をまとめ、2 日目になり、形成したグループ間で交渉し、妥協点を探り合い、最終的に 1 つの決議案を作成するに至った。本校の生徒も、ロシアの国益を重視した

主張・提案を繰り返し、「情報の管理もサイバーセキュリティーを考える上で重要である」という文言が成果文書に記載されるに至った。また、会議へ参加するにあたって事前に提出する、担当国の主張および提案をまとめた「Position and Policy Paper（ポジション アンド ポリシーペーパー）」が評価され、本校生徒は「ベストポジションペーパー賞」を受賞した。

4 章 今後の課題

本校では、2015 年度より有志の生徒により模擬国連活動を開始した。まずは、神奈川県桐光学園高等学校との 2 校による練習会を行った。その後も、渋谷教育学園幕張高等学校で実施された合同練習会などを通して、生徒は、模擬国連の会議を経験し、今年度の全日本高校模擬国連大会の参加に至った。

本校では、まだ有志の生徒による活動にとどまっている。今度、この活動をより多くの生徒に経験させることが 1 つの目標ではあるが、1 章で大まかに述べたプロシージャと呼ばれる会議の手順は複雑であり、また、参加者の会議に対するモチベーションや背景知識の多寡が会議の成否に影響を与えるので、授業などで取り上げるのは、難しい。しかしながら、模擬国連の形式を部分的にでも取り入れることで、本稿で強調してきた「異なるものの見方」「交渉を主眼とした議論」「内容重視型の英語学習」という教育効果が期待される活動を、授業でも行なうことはできると考えている。これまでのように、有志による活動を行ないながらも、模擬国連の形式を教科の中にどのように工夫して取り入れることができるかが、本校での取り組みの今後の課題である。

高校生による模擬国連の取り組みを全国的に見ると、まずその会議の少なさが問題点として挙げられる。高校生を対象にした正式な模擬国連大会は、全日本高校模擬国連大会しかなく、参加者も 1 次課題審査を通過した 80 組ほどしか参加できない。また 1 校につき 2 組までの参加しか認められていないという問題点もある。また、新規に始めたい場合も、上述したようなルールの複雑さや、練習会の少なさなどが弊害となっていた。この点に関しては、2017 年の夏に、全国の高校生を対象にした模擬国連大会が新たに実施される予定である。この大会が、より多くの高校生が模擬国連を経験する良い機会になればと願っている。こちらの会議の詳細や、参加申し込みに関しては、本稿最後に記したユネスコ・アジア文化センターの HP を参照してもらえればと思う。また、これまでの全日本高校模擬国連大会で扱われた「議題解説書」は、オンラインで参照することができるので、模擬国連の練習を行なうのに活用できる。

以上、教育効果を視点にしながら、本校生徒が全日本高校模擬国連大会に、どのように取り組んできたかを、生徒の実際の意見の内容も交えながら述べてきた。これまで述べて

きた教育効果に加えて、模擬国連は、他校の生徒と交流できるのが何より貴重な経験となりうる。本稿を読んでいただいた先生には、今後本校生徒と合同練習会や勉強会をする機会を共有できればと思う。また、最後になるが、これまで練習会を合同で行なっていた各高校の生徒、先生方、また全日本高校模擬国連を運営して下さった方々に感謝の意を表し、本稿を締めくくりたい。

参考文献

Japan Committee for Global Classrooms『第10回全日本高校模擬国連大会 会議細則 & プロシージャー』

「グローバルクラスルーム」＜<http://jcgcc.accu.or.jp>＞（2016/12/20 アクセス）

「公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター」＜https://www.accu.or.jp/jp/activity/global_classrooms.html＞（2016/12/20 アクセス）

『教育・研究』総目次 創刊号～第30号(1987～2016)

— 創刊号(1987) —

縦組

「紀要」発刊にあたって	新井 正男	i - ii
帝国統計年鑑・宗教年鑑にみる宗教派百年の特色(上)	藤田昭次郎	1 - 32
1910年・石川啄木 ——「日韓併合」と二首の歌——	渡邊 哲夫	33 - 40
〔資料〕紀要に関する答申	紀要発刊準備委員会	41 - 43

横組

二階常微分方程式系の振動解における充分条件について(欧文)	秋山 和男	1 - 19
力と運動についての歴史的考察	荒井 辰雄	20 - 47
Team Teaching 実践記録	池野良男・矢島賢太郎・薫田達夫	48 - 66
東京都に生息するヒゲナガゾウムシ科甲虫類について(I)	妹尾 俊男	67 - 84
資料 地名表(1)	両角 節	85 - 96

— 第2号(1988) —

縦組

帝国統計年鑑・宗教年鑑にみる宗教派百年の特色(下)	藤田昭次郎	1 - 43
記録『教育・研究』創刊号記念シンポジウム	(武市雅至)	44 - 45

横組

教育視察報告(ギリシャ・フランス・アメリカ)	寺島 政之	1 - 41
間島・1930年	保坂 治朗	42 - 61
中華人民共和国の行政区画の変遷	両角 節	62 - 68
第6回国際数学教育会議報告	秋山和男・越智和喜・辻 正道・橋本明彦	69 - 102
アジア産ヒゲナガゾウムシ科に関する文献目録(1)	妹尾 俊男	103 - 142
乾田直播水稻における本田肥を兼ねた生育調節技術が、 黄熟期の稈の形態的变化並びに倒伏性に及ぼす影響	平野 誠	143 - 160

— 第3号(1989) —

縦組

共同性の自覚と機械の把握(上) ——マルクス機械論の論理構成——	増田 博一	1 - 28
兄の思ひ出あれこれ ——萩原朔太郎妹星野み柰「遺稿ノート」	渡邊 哲夫	29 - 37
帝国統計年鑑・宗教年鑑にみる宗教派百年の特色(資料編)	藤田昭次郎	39 - 170
第二号発刊記念会に思う	(長坂達彦)	171

横組

グリーン不等式のある一般化(英文)	秋山 和男	1 - 4
山羊乳チーズ製造に関する基礎的研究(仏文)	飯山 禮文	5 - 13
J. D. Salinger 'Pretty Mouth and Green my Eyes' に見る、アメリカ庶民英語の用法	加藤 泰彦	15 - 38
中央大学附属高校に寄贈された昆虫標本I. 鱗翅目(蝶類)	妹尾 俊男	39 - 74
阿片・上海・1937	保坂 治朗	75 - 91

— 第4号(1990) —

縦組

共同性の自覚と機械の把握(中) ——マルクス機械論の論理構成——	増田 博一	1 - 36
----------------------------------	-------	--------

帝国統計年鑑・宗教年鑑にみる宗教派百年の特色（資料編二）	藤田昭次郎	37 - 68
戦前の地図 ——機密と改描——	両角 節	69 - 127
「国際啄木学会」盛岡大会の記	渡邊 哲夫	129 - 131
タイの日々（一）	妹尾 俊男	132
紀要『教育・研究』第三号発刊記念会の記録	（妹尾俊男）	133 - 135
横 組		
1989 年度 LL ティーム・ティーチング報告（英文）	村上 綾宏	1 - 17
1987, 88, 90 年度 LL ティーム・ティーチング報告（英文）	長坂 達彦	19 - 36
世界史を統一的に理解する試み ——『世界史』教材づくりの下書き——	保坂 治朗	37 - 66
三角形の五心	竹島 和正	67 - 74
中央大学附属高校に寄贈された昆虫標本Ⅱ. トンボ目・バッタ目	妹尾 俊男	75 - 90
房総半島西海岸の砂岩の粒度分析（1）	清水 弘	91 - 102
Liberte, Egalite, Fraternite ある青年の思い出	飯山 禮文	103 - 108

— 第 5 号 (1991) —

縦 組		
『教育・研究』第五号発刊にあたって	山田 健三	i - ii
共同性の自覚と機械の把握（下の一） ——マルクス機械論の論理構成——	増田 博一	1 - 44
日本紀と源氏物語	杉浦 一雄	45 - 72
外邦図『台湾』作成の背景	両角 節	73 - 122
帝国統計年鑑・宗教年鑑にみる宗教派百年の特色（資料編三）	藤田昭次郎	123 - 170
紀要『教育・研究』第四号発刊記念会の記録	（妹尾俊男）	171 - 172
横 組		
コロンビア高校交流プログラムの概要	矢島賢太郎	1 - 14
垣間見た北朝鮮	保坂 治朗	15 - 32
借りものの英語から未来へ（英文）	長坂 達彦	33 - 39
房総半島西海岸の砂岩の粒度分析（2）	清水 弘	41 - 48
オーストラリアの学校教育について	寺島 政之	49 - 53
コロンブス日本上陸（1）（英文）	村上 綾宏	55 - 61
本校周辺の自然環境について ——一生物学徒の危惧——	妹尾 俊男	63 - 65
アブラゼミの合唱を 10 月に聞く	妹尾 俊男	65
コンピュータによる成績処理（Ⅰ）	橋本 明彦	67 - 154
『教育・研究』総目次 創刊号—第 5 号（1987-1991）	紀要（『教育・研究』）編集委員会	155 - 156

— 第 6 号 (1992) —

縦 組		
六条院の光と影	杉浦 一雄	1 - 41
相撲と四神思想について ——伝統文化と歴史的背景——	藤田昭次郎	43 - 99
外邦図 ——東アジア（1）——	両角 節	101 - 162
共同性の自覚と機械の把握（下の二） ——マルクス機械論の論理構成——	増田 博一	163 - 202
大西巨人『三位一体の神話』手控え	大高 知児	203 - 234
《特別寄稿》本校の前身「目白中学校・杉並中学校」について	大森 康弘	235 - 242
『教育・研究』第五号発刊記念会の記録	（増田博一）	243 - 244
横 組		
オーストラリア高等学校体験入学記	饗場 実	1 - 22

1937年・中央アジアへ ——遠東の朝鮮人——	保坂 治朗	23 - 38
スラウェシ島産のヒゲナガゾウムシ科甲虫類 (1)	妹尾 俊男	39 - 42
グラフ描画プログラム	橋本 明彦	43 - 46
体格・体力・運動能力調査報告書 ——1990～1992 スポーツ・テスト——	伊東 祐彦	47 - 72
英語教育における外国人講師に役割		
——日本人教員と外国人教師の協調がもたらすより良い英語教育—— (英文)	ジェイムズ・スイック	73 - 77
ヒューマンスティック・テクニクの教案への応用 (英文)	長坂 達彦	79 - 86
コロンブス日本上陸 (2) (英文)	村上 綾宏	87 - 94

— 第 7 号 (1993) —

縦 組

第七号への序	深澤 俊	i
『千載佳句』小考 ——同時代における影響関係を中心にして——	小野 泰央	1 - 11
源氏物語の構想	杉浦 一雄	13 - 59
共同性の自覚と機械の把握 (下の三) ——マルクス機械論の論理構成——	増田 博一	61 - 92
鳥居と華表について ——伝統文化と歴史的背景——	藤田昭次郎	93 - 154
『教育・研究』第六号発刊記念会の記録	(増田博一)	155 - 157

横 組

ジュワイニーの記述に見える「ターラービーの乱」について	代田 貴文	1 - 26
コミュニケーションにおける表現と解釈の問題		
——E. ゴッフマンの「フレイム」と「状況」について	古澤 康久	27 - 36
啄木三行書き短歌の源泉 ローマ字歌集「NAKIWARAI」(土岐哀果著) 全訳	渡邊 哲夫	37 - 70
化学授業における実験の実践記録 (1)	椎名甲子夫	71 - 88
ポリ袋を利用した簡易水田の作り方 ——理科・授業導入への試み——	平野 誠	89 - 98
体格・体力・運動能力調査報告書 (2) ——1990～1993 スポーツ・テスト——	伊東 祐彦	99 - 116
変数一覧出力プログラム	橋本 明彦	117 - 120
トップダウンによる聴解力養成 (英文/邦訳)	ジェイムズ・スイック・池野良男 (訳)	121 - 138
コロンブス日本上陸 (3) (英文)	村上 綾宏	139 - 146

— 第 8 号 (1994) —

縦 組

書くということ	深澤 俊	i
源氏物語の位置	杉浦 一雄	1 - 28
明治政府の神社行政 ——大多喜町 (旧), 草加市の史料を例に——	藤田昭次郎	29 - 92
[書評] ハンス・イムラ ——著栗山純訳『経済学は自然をどうとらえてきたか』	増田 博一	93 - 122
シリーズ たま多摩見てある記 1, 2	渡邊哲夫・宮内 勉	123 - 127
『教育・研究』第七号発刊記念会の記録	(武市雅至)	128

横 組

秦の起源をめぐる近年の研究動向	大島 誠二	1 - 18
見せかけと自己 (1) ——ゴッフマンとレインからの一考察——	古澤 康久	19 - 30
1934年・遠野	保坂 治朗	31 - 51
平成5 (1993) 年度海外研修報告 ——タイ国の昆虫類に関する研究——	妹尾 俊男	53 - 69
各種飲料水に含まれるショ糖 ——本校で販売される各種飲料水——	平野 誠	71 - 80
化学授業における実験の実践記録 (2)	椎名甲子夫	81 - 104
生徒実験に対する事前研究 ——アルミニウム・亜鉛とそれらの化合物——	武市 雅至	105 - 133

外国語教育における文学テキストの読み取りと解釈について	岡崎 浩	135 - 142
“楽しい” 発音練習 (英文)	長坂 達彦	143 - 147
日本語の助詞「は」, 「が」, 「も」と英語における強勢語の関係 (英文)	ジェイムズ・スイック	149 - 159
ドリームタイム: オーストラリア先住民の創造神話とそれらの現代への関連 (英文)	アンドリュー・ベヴァン	161 - 164
文学に表現された英語系カナダ人のナショナリズム (英文)	マイルズ・チルトン	165 - 172
コロンブス日本上陸 (4) (英文)	村上 綾宏	173 - 176

— 第 9 号 (1995) —

縦 組

学ぶ教師たち	深澤 俊	i
地図から観たアジアの領域 (1)	両角 節	1 - 38
エントロピー学派の「経済学」構想		
〔書評〕『循環の経済学』, 『経済学の方角転換』	増田 博一	39 - 64
書線に魅せられて	西方 純晴	65 - 70
『俊頼髓脳』全注釈 一	福田亮雄他	71 - 79
シリーズ たま多摩見てある記 3, 4	渡邊哲夫・宮内 勉	80 - 83
『教育・研究』第八号発刊記念会の記録	(村上綾宏)	84

横 組

6人制バレーボール・ゲームのコーチング	中村 四郎	1 - 16
見せかけと自己 (2) ——A. シュッツの議論を手がかりに——	古澤 康久	17 - 25
社会学的メタ理論の構造	鈴木 健之	27 - 42
平成 6 (1994) 年度計画研修報告	饗場 実	43 - 47
グロウンウォール不等式の一般化	秋山 和男	49 - 55
理系クラスにおける化学実験の実践記録	椎名甲子夫	57 - 82
タイ国産コメツキムシ類の採集記録	妹尾俊男・太平仁夫	83 - 98
研修の旅	吉野 孝一	99 - 115
英語文学 ——ハーストン・アチェベ・グギ——	津谷 美穂	117 - 127
リサーチを読む, エリ・ヒンケル (英文)	長坂 達彦	129 - 134
言語学習における適性と教室学習 (英文)	ジェイムズ・スイック	135 - 144
コロンブス日本上陸 (5) (英文)	村上 綾宏	145 - 149

— 第 10 号 (1996) —

縦 組

意外性と可能性	深澤 俊	i - ii
『俊頼髓脳』全注釈 二	福田亮雄他	1 - 14
源氏物語の創造	杉浦 一雄	15 - 51
シリーズ たま多摩見てある記 5, 6	渡邊哲夫・宮内 勉	52 - 55
『教育・研究』第九号発刊記念会の記録	(福田亮雄)	56

横 組

見せかけと自己 (3) ——「秘密」の保護と効果について——	古澤 康久	1 - 10
ネオ機能主義の哲学的基礎	鈴木 健之	11 - 13
「対談」形式による試験問題の試み ——「倫理」1995 年度——	増田 博一	25 - 38
バレーボールのチームと練習の組織化	中村 四郎	39 - 52
授業で扱う化学実験の研究 ——中和滴定——	武市 雅至	53 - 72

「夏休み自然科学教室」実施報告 (1)		
——1993～1996年度 生物科・地学科 特別課外講座——	平野誠・北原敏之	73-106
「エディブル・ウーマン」考 ——作品展開における描写の様相——	塚田 英博	107-123
ネイティヴスピーカとの談話『わかってるのかなア』（談話分析）	長坂 達彦	125-132
クラッシュン、モニター理論とピーナマン、マルチダイメンションモデルの実践的応用	ジェイムズ・スウィック	133-141
コロンブス日本上陸 (6) (英文)	村上 綾宏	143-147
『教育・研究』総目次 創刊号—第10号 (1987-1996)	紀要 (『教育・研究』) 編集委員会	148-152

— 第 11 号 (1997) —

縦 組

巻頭言	中西 又三	i - ii
紙と近代 ——『空想家とシナリオ』論のために	五味淵典嗣	1 - 13
『俊頼髓脳』全注釈 三	福田亮雄他	15 - 31
評釈『四季物語』 ——二月～三月——	坂本 優他	33 - 45
奈良時代の天智天皇親 ——皇統の問題から——	中野渡俊治	47 - 55
【高校生のための学習パンフレット】歴史としての資本主義	増田 博一	57 - 89
シリーズ たま多摩見てある記 7	渡邊哲夫・宮内 勉	90 - 95
『教育・研究』第十号発刊記念会の記録	(武市雅至)	96

横 組

「状況」維持のためのフレームとしての「感情」	古澤 康久	1 - 11
社会学史研究の新機軸	鈴木 健之	13 - 19
境界性人格障害の生徒の指導事例	嶋崎 壽勝	21 - 32
インターネット ——その功罪について——	高瀬 徹	33 - 42
1996年度海外研修報告	秋山 和男	43 - 59
一般化されたラグエル多項式の零点の分布	秋山 和男	61 - 142
数列の漸化式	竹島 和正	143 - 154
ベトナムのヒゲナガゾウムシ科	妹尾 俊男	155 - 171
高校生のための「健康」セミナー ——ホームルームを利用した健康教育——	平野 誠	173 - 192
高校生にカルシウムが必要な理由	井上 宣子	193 - 197
バレーボールの高度な技術の分析とその指導法	中村 四郎	209 - 226
日英文章構成の比較	長坂 達彦	227 - 238
ウォーカー・パーシイの作品における「父」の不在	三井 美穂	239 - 255
『ヒュー・セルウィン・モーバリー』試論		
——「ヒュー・セルウィン・モーバリー」におけるペルソナ——	塚田 英博	257 - 268
アメリカ独立宣言のあいまいな “We”	チルトン・マイルズ	269 - 272
コロンブス日本上陸 (7) (英文)	村上 綾宏	273 - 276

— 第 12 号 (1998) —

縦 組

紀要 12 号の発刊に当たって	中西 又三	i
万葉「応詔歌」私見	白瀬 真之	1 - 15
『未来抄』試論 ——「手をはなつ」句の解釈をめぐる——	坂本 優	17 - 34
『俊頼髓脳』全注釈 四	福田亮雄他	35 - 53
【高校生のための学習パンフレット】環境問題をどう学ぶか	増田 博一	55 - 74

紀要『教育・研究』第11号刊行記念会の記録	中野渡俊治	75
横 組		
「質実剛健」に関する一考察	中西 又三	1 - 22
附属体操	保健体育科	23 - 42
脳科学における数学の可能性とその未来	秋山 和男	43 - 56
ベトナムの漁業 ——そのフランス植民支配による影響——	遠藤 堂太	57 - 66
格付けからみるフランス食文化 ——ギド・ミシュランと食卓外交を中心に——	高瀬 徹	67 - 81
サン・シモン主義活動とシャンソン	井野部美佐	83 - 92
高齢社会の老人福祉と施設	井上 宣子	93 - 113
制服導入論議 ——アメリカの公立学校の場合——	矢島賢太郎	115 - 126
ヘンダソンのアメリカ		
——ソール・ペロウの『雨の王ヘンダソン』におけるアフリカニスト・デイスクール——	三井 美穂	127 - 136
裁判英語 ——映画・小説・雑誌から——	池野 良男	137 - 149
リーディングにおける語彙の理解が果たす役割	藤本 真希	151 - 170
どの単語が難しい:教師の直感, NS vs NNS (英文)	長坂 達彦	171 - 180
現代日本における恋愛論と結婚論 (英文)	チルトン・マイルズ	181 - 185
平成9年度国内研修報告 ——英語教育における効果的な指導を求めて——	池野 良男	187 - 191
コロンブス日本上陸 (8) (英文)	村上 綾宏	193 - 197

— 第 13 号 (1999) —

縦 組		
研究に基づく生き生きとした教育を ——第13号発刊に当たって	中西 又三	1
『俊頼髄脳』全注釈 五	福田亮雄・池田恵美子他	3 - 21
翻刻 ——『真字徒然草』(一)	池田恵美子	23 - 33
陸奥の俳人 内藤風虎 ——年譜の事項と俳諧関連資料紹介——	坂本 優	35 - 50
「永訣の朝」を読む ——その「ことば」を通して浮かび上がってくるもの——	長谷川達哉	51 - 73
横 組		
英語エッセイ評価法に関する比較研究	ジェームズ・スウィック	1 - 10
マイケル・オンダッチの『イン・ザ・スキン・オブ・ライオン』における芸術と政治	マイケル・チルトン	11 - 21
コロンブス日本上陸 (9) (英文)	村上 綾宏	23 - 28
ホーソー、ハウエルズ、ジェイムズの関係 ——ロマンを媒介にして——	塚田 英博	29 - 36
山部赤人研究文献目録	白瀬 真之	37 - 63
演技性人格障害の生徒の指導事例	嶋崎 壽勝	65 - 80
研究旅行元年	篠 薫	81 - 99
平成10(1998)年度海外研修報告 ——中国考古学事情管見記——	大島 誠二	101 - 118

— 第 14 号 (2000) —

縦 組		
紀要14号の刊行に当たって ——三冊の本に思う	中西 又三	i - iv
『俊頼髄脳』全注釈 六	福田亮雄・池田恵美子他	1 - 26
【高校生のための学習パンフレット】グローバリゼーションとは何か	増田 博一	27 - 50
私の行政法講義	中西 又三	51 - 75

横 組

メディア空間とコミュニケーション	古澤 康久	1 - 14
エルゴード理論の基礎		
——マヘンドラ・ナドカリの「基礎エルゴード理論」の要約——	牧野 良介	15 - 32
平成 11 年度 (1999 年度) 計画研修報告	細井 喜一	33 - 38
これまでのこと, 翻訳を中心に	渡邊 譲司	39 - 51
コロンブス日本上陸 (10) (英文)	村上 綾宏	53 - 58

— 第 15 号 (2001) —

縦 組

紀要 15 号の刊行に当たって ——「附属だから」を越えて「附属でこそ」へ——	中西 又三	i - iii
私の行政法講義 (その 2)	中西 又三	1 - 31
竹西寛子『蘭』覚書 ——〈常態〉の消滅という問題について	大高 知児	33 - 41
台湾における竹バルブ事業の周辺 ——紙と近代 (2)	五味渕典嗣	43 - 54
『俊頼髓脳』全注釈 七	福田亮雄・池田恵美子他	55 - 73
銅版草双紙書目年表稿 (上)	磯部 敦	75 - 134

横 組

カラ=ハーン朝史研究の基本的諸問題	代田 貴文	1 - 32
平成 13 年度海外長期研修報告	高瀬 徹	33 - 50
フランス語感覚から見るフランス人の特質 ——近代フランス語を中心に——	高瀬 徹	51 - 57
人間と国家	高瀬 徹	59 - 66
フランスにおける家族の特質	高瀬 徹	67 - 79
金門風獅爺調査報告	齋藤 晃	81 - 91
『校史』基本資料 [I] 目白中学	保坂 治朗	93 - 106
計算量理論	中川 仁	107 - 129
表示が義務づけられた遺伝子組み換え食品	井上 宣子	131 - 148
コロンブス日本上陸 (11) (英文)	村上 綾宏	149 - 152

— 第 16 号 (2002) —

縦 組

巻頭言「教師は根のない人」か	中西 又三	i - iii
文明を評論するとはどういうことか ——長井荷風『深川の唄』評釈——	小野祥子・五味渕典嗣	1 - 48
翻刻 ——『真字徒然草』(二)	池田 恵美子	49 - 60
巻八赤人歌小論序説	白瀬 真之	61 - 79
『俊頼髓脳』全注釈 八	福田亮雄・池田恵美子他	81 - 103
【高校生のための学習パンフレット】私であらうとすること ——グローバリゼーション時代のアイデンティティー——	増田 博一	105 - 124

横 組

外交政策をめぐる一考察 ——フランス外交の展開を中心に——	高瀬 徹	1 - 28
管理される「感情」	古澤 康久	29 - 40
『校史』基本資料 [II] 目白中学から杉並中学へ	保坂 治朗	41 - 70
九州地方における昆虫展の黎明期の資料	妹尾 俊男	71 - 106
平成 13 (2001) 年度国内研修報告 ——TESOL の日本の高校英語教育における可能性について——	森田 太郎	107 - 122

トニ・モリスン「タール・ベイビー」に関する一考察 ——アメリカ黒人子コミュニティ内における分裂 ——（英文）	徳原美由樹	123 - 140
‘tough’ 構文移動（変形）に関する報告 ——大学生のアンケートからの考察を基にして——	塚田 英博	141 - 145
中央大学附属高等学校新1号館建設の経緯	中西 又三	147 - 166

— 第 17 号 (2003) —

縦 組

巻頭言『教育・研究』第17号刊行に寄せて	金子 雄司	i - ii
『俊頼髓脳』全注釈 九	福田亮雄・池田恵美子他	1 - 31

横 組

平成14（2002）年度海外研修報告	児島 恵子	1 - 9
TAP 実験分析	児島 恵子	11 - 22
第1回アメリカ短期研修プログラム	池野 良男	23 - 44
第3回英国短期語学研修実施報告	三浦麻美子	45 - 69
ポロニウム滞在記 ——ポーランドの言語と文化にふれて	井ノ川 史	71 - 83
『校史』基本資料〔Ⅲ〕 杉並中学・杉並高校から中央大学との合併へ 高等学校における支持療法	保坂 治朗	85 - 105
	嶋崎 壽勝	107 - 116

— 第 18 号 (2004) —

縦 組

巻頭言 学問は人に入る ——Studia aveunt in mores	金子 雄司	i - ii
『俊頼髓脳』全注釈 十	福田亮雄・池田恵美子他	1 - 17
【高校生のための学習パンフレット】正義をめざすということ ——グローバリゼーション時代を生き抜くために——	増田 博一	19 - 38

横 組

タトバニの音楽における多文化的影響の考察（英文）	アンドリユー・ベヴァン	1 - 22
『校史』基本資料〔Ⅳ〕 合併，移転，中央大学附属高等学校へ	保坂 治朗	23 - 66
平成15年度（2003年度）計画研修報告	池田恵美子	67 - 73
第2回アメリカ短期研修報告	横田 緑	75 - 100
第4回英国短期語学研修実施報告	三浦麻美子	101 - 131

— 第 19 号 (2005) —

縦 組

巻頭言 創刊号を繙く	金子 雄司	i - ii
『俊頼髓脳』全注釈 十一	福田亮雄・池田恵美子他	1 - 19

横 組

『校史』基本資料〔Ⅴ〕 年譜		
目白中学，杉並中学，杉並高校，中央大学杉並高校，中央大学附属高校	保坂 治朗	1 - 105
emathによるグラフ・図形問題の出力例	竹島 和正	107 - 118
視方向原理の数理モデル化の可能性	秋山 和男	119 - 136
ブラジル・アルゼンチン訪問記	篠 薫	137 - 152
マレーシア研究旅行実施報告	齋藤 晃	153 - 180
第3回米国短期語学研修実施報告	三浦麻美子	181 - 198
ヘドニック・アプローチによる単身者用賃貸住宅の価格決定要因の推定	河合 伸治	199 - 207

— 第 20 号 (2006) —

縦 組

巻頭言	金子 雄司	i - ii
赤人一四二五番歌の解釈	白瀬 真之	1 - 13
【高校生のための学習パンフレット】責任を感じる ——応答責任論の新潮流——	増田 博一	15 - 34
『俊頼髓脳』全注釈 十二	福田亮雄・池田恵美子他	35 - 52

横 組

腐食抑制剤と定電流アノード分極に伴う軟鋼の孔食発生特性	武市 雅至	1 - 19
私的教育論	高瀬 徹	21 - 32
あなたの言葉ではなく、私の言葉を ——映画『愛は静けさの中に』——	小野 祥子	33 - 42
2005 年度研究旅行「異文化体験タイ国ホームステイ」報告	大島 誠二	43 - 60
異文化体験タイ国ホームステイ (2006) 第 2 回タイ国研究旅行	妹尾俊男・平良達夫	61 - 88
第 6 回英国短期語学研修報告	佐藤 顕	89 - 104
病魔に冒された江崎悌三の晩年 日本昆虫学史資料 2	妹尾 俊男	105 - 112
『教育・研究』総目次 創刊号—第 20 号 (1987-2006)	紀要『教育・研究』編集委員会	113 - 121

— 第 21 号 (2007) —

縦 組

巻頭言に代えて ——コピー・アンド・ペースト	金子 雅司	i - iii
思考としての〈課題図書〉	五味潤典嗣	1 - 17
『俊頼髓脳』全注釈 十三	福田亮雄・池田恵美子他	19 - 38
『春琴抄』を読む	長谷川達哉・頓野綾子・渡邊英理	39 - 75
一九五〇年代韓国「戦後」小説 ——『誤発弾』『受難二代』を中心に——	高 和政	77 - 87

横 組

高大連携をめざした英語基本語リスト作成における JACET8000 の有用性に関する考察	横田 緑	1 - 22
第 7 回英国短期語学研修実施報告	三浦麻美子	23 - 42

— 第 22 号 (2008) —

縦 組

巻頭言	三枝 幸雄	i
原民喜と八幡村 ——「夏の花」・「小さな村」・「廃墟から」における形象化について——	大高 知児	1 - 13
『俊頼髓脳』全注釈 十四	福田亮雄・池田恵美子他	15 - 29
〈涙〉の重み ——『1 リットルの涙』を読む	頓野 綾子	31 - 58

横 組

2007 年度 国内計画研修報告	横田 緑	1 - 12
半導体の非平衡状態に関する研究の概要と励起子ボゾン化法の必要性について	奥村 暁	13 - 16
第 8 回英国短期語学研修実施報告	三木 紀子	17 - 26
ドイツ刑法におけるハード・ポルノの概念	川田 泰之	27 - 35

— 第 23 号 (2009) —

縦 組

巻頭言	三枝 幸雄	i - ii
『枕草子』第一段を読みなおす ——句読の加点ないし「語り」の構造、もしくは「はた言ふべきにあらず」攷——	金井 利浩	1 - 18

伊藤整「海に見える町」はどう読めるか ——高等学校国語教材としての立場から——	尾形 大	19 - 34
『俊頼髄脳』全注釈 十五	福田亮雄・池田美恵子他	35 - 52
横 組		
高校生の歴史認識とその形成について ——日本史の授業現場から——	伊藤 直純	1 - 11
高等学校地理歴史科・公民科における環境教育に関する一考察 ——環境経済学の視点を取り入れた環境教育——	河合 伸治	13 - 21
裁判員制度をめぐる問題点 ——法教育と授業展開——	川田 泰之	23 - 32
エリート教育Ⅰ ——フランスを中心に——	高瀬 徹	33 - 46
東京都におけるムササビの分布最前線の変遷	岡崎 弘幸	47 - 60
青梅市で見つかったタヌキの部分白化	岡崎弘幸・妹尾俊男・中島捷恵	61 - 64
タイ国より安松京三に名誉理学博士号 日本昆虫学史資料3	妹尾 俊男	65 - 69
ホイヘンスの原理に対する数学的基礎付けの紹介	奥村 暁	71 - 75
2008年度 長期海外研修報告	三浦麻美子	77 - 88
第9回英語短期語学研修報告	平良達夫・佐々木美緒	89 - 100
トルコ研究旅行実施報告	兼松 勉	101 - 111

— 第 24 号 (2010) —

縦 組		
巻頭言	三枝 幸雄	i - ii
『更級日記』の終わりは仮名消息である ——歌文融通文体へのまなざし、もしくは『源氏』を書き継いだ身物語——	金井 利浩	1 - 18
『俊頼髄脳』全注釈 十六	池田恵美子・家永香織他	19 - 38
大槻憲二「夜霧」における無意識の扱われ方	尾形 大	39 - 51
高麗前期の官僚李文鐸の墓誌を通じてみた高麗・金関係について	近藤 剛	53 - 81
【高校生のための学習パンフレット】正義をめぐる議論から、卓越そして崇高へ。	増田 博一	83 - 96
横 組		
ムササビ研究の民俗学的アプローチ〔Ⅰ〕 ——古典に見るムササビ——	岡崎 弘幸	1 - 13
俳人杉田久女から安松への手紙 日本昆虫学史資料4	妹尾 俊男	15 - 22
小金井市内昆虫観察記(1) 中央大学附属中学校・高等学校	大島 建雄	23 - 26
仮定法指導における注意点	田中 翼	27 - 35
2009年度国内研修報告	小手森麗華	37 - 98
英国短期語学研修報告	三浦麻美子・横田緑	99 - 118
2009年度マレーシア研究旅行実施報告	齋藤 晃	119 - 143

— 第 25 号 (2011) —

縦 組		
巻頭言	三枝 幸雄	i - ii
『和泉式部日記』紅葉狩り章段を読む ——「山べにも」の詠み手は帥宮でよいのか? ——	金井 利浩	1 - 14
『俊頼髄脳』全注釈 十七	池田恵美子・家永香織他	15 - 34
村上春樹「沈黙」を読む(一) ——高等学校国語科教材としての一視点——	尾形 大	35 - 46
横 組		
メイプルソープ判決の意義	川田 泰之	1 - 19
ムササビ研究の民俗学的アプローチ〔Ⅱ〕	岡崎 弘幸	21 - 27
昭和初期の東京蟲乃會および東京農業大学昆蟲研究室 日本昆虫学史資料5	妹尾俊男・長谷川道明	29 - 34

小金井市内昆虫観察記（2）東京都立小金井公園	大島 建雄	35 - 46
言語による情報伝達とその余剰性	田中 翼	47 - 58
第 11 回英国短期語学研修報告	掛村 浩二	59 - 74
2011 年度研究旅行「熱帯雨林の島ランカウイ島（マレーシア）」実施報告 岡崎弘幸・小手森麗華		75 - 89
『教育・研究』総目次 創刊号—第 25 号（1987-2011）	紀要『教育・研究』編集委員会	91 - 101

— 第 26 号 (2012) —

縦 組

巻頭言	三枝 幸雄	i - ii
高校古典定番教材不審抄 ——「白河の関」「東下り」「梓弓」の読解をめぐる——	金井 利浩	1 - 16
『俊頼髄脳』全注釈 十八	池田恵美子・家永香織他	17 - 52
村上春樹「沈黙」を読む（二）—— 高等学校国語科教材としての一視点 ——	尾形 大	53 - 64
《研究余滴》清女と紫女	金井 利浩	65 - 72

横 組

史的展開としての環境訴訟 —— 環境訴訟の過去・現在・未来 ——	長島 光一	1 - 28
2012 年度研究旅行「ヴェトナム・カンボジア社会探訪の旅」報告	大島 誠二・齋藤 晃・参加生徒	29 - 52
2 階微分方程式のミニガレリ予想について	秋山 和男	53 - 64
昆虫学者・堀浩（1899-1974）の著作目録 日本昆虫学史資料 6	妹尾 俊男	65 - 70
小金井市内昆虫観察記（3）都立武蔵野公園と都立野川公園	大島 建雄	71 - 90
3 年次選択科目における通訳訓練技法の一般英語学習への応用の試み	横田 緑	91 - 108
関係詞指導における注意点	田中 翼	109 - 128
第 12 回英国短期語学研修実施報告	佐々木美緒	129 - 142
本校グリーンテラスでのスイカ立体栽培の実践	早坂 有司	143 - 152
その後の境界例（ボーダーライン）	嶋崎 壽勝	153 - 168

— 第 27 号 (2013) —

縦 組

歴史を共有すること —— 巻頭言にかえて ——	小杉 末吉	i - ii
歌と歌との、あるいは歌と地の文との響演、もしくは土地と「女」とに聴 ^{ゆる} されたる「をとこ」たち ——『伊勢物語』第八十七段を読みなおす——	金井 利浩	1 - 18
『俊頼髄脳』全注釈 十九	池田恵美子・家永香織他	19 - 42
大岡昇平「靴の話」の読み方 ——「私」は〈疲弊の中の物質主義〉をどのように語ったのか——	大高 知児	43 - 68

横 組

波濤を超えて～英国で建造された駆逐艦＜明治 31（1898）年～明治 33（1900）年＞の日本回航について～	矢島賢太郎	1 - 50
投射運動に関する iPhone を用いたアクティブラーニング型授業	勝田 仁之	51 - 56
宝交早生栽培 4 0 0 日間の記録	早坂 有司	57 - 70
第 1 回 オーストラリア交流プログラム 実施報告	三浦麻美子	71 - 86
第 13 回英国短期語学研修報告	横田 緑	87 - 104
2013 年研究旅行 「ドイツ～古城街道・ロマンチック街道を往く世界遺産巡り～」実施報告	長谷川 崇	105 - 118
法と教育学会第 4 回学術大会参加報告	川田 泰之	119 - 134

— 第 28 号 (2014) —

縦 組

カリキュラムに求められること —— 巻頭言にかえて	小杉 末吉	i - ii
桐壺帝の言葉と桐壺更衣の和歌と —— 注釈史の「限り、を越えて」——	金井 利浩	1 - 16
『俊頼髓脳』全注釈 二十	池田恵美子・家永香織他	17 - 34
終身雇用の崩壊と終わりのなき旅 —— 三崎亜記「ゴール」論 ——	矢野 利裕	35 - 42
【研究ノオト】『和泉式部日記』の基底逆説的言語状況、 もしくは『和泉式部物語』論・序説	金井 利浩	43 - 54

横 組

【研究報告】沖縄県における平和教育の展開 —— 1960 ～ 1990 年代の動向 ——	丸山 敬史	1 - 28
認知的葛藤による素朴概念克服を目指した「力と運動」の授業実践報告 —— ICT 機器の活用で可能となったアクティブラーニング型授業の展開 ——	勝田 仁之	29 - 64
暖地系ニンニク 3 品種の栽培と加工	早坂 有司	65 - 78
2013 年度 国内研修報告	丸山 敬史	79 - 92
第 14 回英国短期語学研修報告 (英文)	アダム・ラブ	93 - 116

— 第 29 号 (2015) —

縦 組

新たな中附の創出をめざして —— 巻頭言にかえて ——	小杉 末吉	i - ii
流布本『清少納言集』注釈稿 一	金井 利浩	1 - 20
『俊頼髓脳』全注釈 二十一	池田恵美子・家永香織他	21 - 44
原民喜「昔の店」における時空間 —— 「物産陳列館の丸屋根」はどのように見えたのか ——	大高 知児	45 - 62
「家族」を演じる —— 干刈あがた「プラネタリウム」論 ——	北島 咲江	63 - 78
川上弘美「月火水木金土日」の読み方 —— 「声」の出現と消滅の意味 ——	大高 知児	79 - 88
【私的評論宣言】 3・11 後の「崇高」	増田 博一	89 - 116
【教室の窓から】もう一つの和泉式部日記・再致	金井 利浩	117 - 126

横 組

プーチン連邦改革における「地域統合」について —— ペルミ州とコミ・ペルミヤーク自治管区との統合に即して ——	小杉 末吉	1 - 22
2 階微分方程式の解法 (定数変化法) におけるある予想問題について	秋山 和男	23 - 36
物理学として一貫性のある「仕事とエネルギー」の授業展開 —— 実験を主軸に生徒とのインタラクティブな授業を目指して ——	勝田 仁之	37 - 56
「書く」ために「読む」論理的文章指導 ～文章の組み立てを視覚化する～	池田 尚子	57 - 70
バガス堆肥を使ったショウガの栽培と調理	早坂 有司	71 - 86
第 15 回 英国短期語学研修報告	堀口 勝裕	87 - 96
第 15 回 英国短期語学研修報告 (英文)	アダム ラブ	97 - 108

— 第 30 号 (2016) —

縦 組

巻頭言 —— 紀要三〇号刊行によせて	小杉末吉	i - ii
流布本『清少納言集』注釈稿 二	金井利浩	1 - 30
密航・民族・ジェンダー —— 在日朝鮮人文学にみる《人流》 ——	高 和政	31 - 52
「再生」の物語 —— 西加奈子「空を待つ」論 ——	池田尚子	53 - 60
【まっぴい最終講義】「崇高の政治経済学」を求めて	増田博一	61 - 80

みんな教師に「なっていく」——N教諭の力量形成プロセスの検討	林 晟一	81 - 112
横 組		
【問題】「政治経済〔理系〕」（高校3年）定期試験2016年度	増田博一	1 - 20
新課程高校世界史教科書における変更点について		
——東アジア世界を題材として——	山元貴尚	21 - 40
教科「情報」における2進数・16進数の導入	橋本明彦	41 - 48
ルジャンドルの公式と素数分布について	秋山和男・長澤辰彦	49 - 66
半導体における電磁場と相互作用する電子の有効ハミルトニアン of 微視的導出	奥村 暁	67 - 136
授業実践報告 高3物理 原子分野		
——実験が困難な分野のアクティブラーニング型授業——	勝田仁之	137 - 182
第16回 英国短期語学研修報告	野田 繭	183 - 190
第16回 英国短期語学研修報告（英文）	アダム ラブ	191 - 204
模擬国連概要および第10回全日本高校模擬国連大会参加報告	岩本祐樹	205 - 212
『教育・研究』総目次 創刊号～第30号（1987～2016）	紀要『教育・研究』編集委員会	213 - 225